

川口基督教会
会館
(大阪市西区)

ザ・見遊じあむ

42



スクールや病院が建てられました。1870年、長崎から大阪にやってきた米国聖公会堂宣教師C・M・ウイリアムス主教がここに教会を建立。現存するレンガ造りでゴシック風の礼拝堂は1920年(大正9年)に建てられたものです。第二次世界大戦の大阪空襲では、焼夷弾が屋根を突き破り祭壇まで落下しましたが、建物は焼けずに残りました。

レンガ造りの荘厳な礼拝堂

拝堂には、ステンドグラスの光が差し込み、荘厳な雰囲気を出しています。



ミュージアムメモ

▼所在地／大阪市西区川口1-3-8▼交通／地下鉄中央線・千日前線「阿波座」駅下車徒歩約5分▼礼拝／毎週日曜日午前10時30分より

「オーストラリア」



大陸の雄大さと神秘性に
包まれた多様なテーマ

オーストラリア版「風と共に去りぬ」の感もあります。2時間45分の中に、戦争、アドベンチャー、人種差別、利権争い、旅立ち別離、そしてロマンスありの盛りだくさんな内容です。やはりこの作品のテーマは原住民アボリジニをはじめ、女性や子ども、黒人に対する人種差別の存在と、それを国全体が克服していく点でしょう。映画では第二次世界大戦での日本軍のダーウィンへの爆撃も描かれています。

第二次世界大戦前夜のオーストラリアの港町・ダーウィン。イギリス人貴婦人のサラは、原野で牧場を営む夫を捜しに来ましたが、すでに何者かに殺されたことを知ります。彼女に残されたのは、広大な牧場と1500頭の牛でした。牧場を立て直すため牛を町まで誘導し、軍に売ることを決心したサラは、カウボーイのドロバー、雇っていた原住民の一家、屋敷の料理人などの力を借り、牛を引き連れて港へ出発します。同業者で町の実力者がこれを妨害するために卑劣な手段を使います。断崖絶壁に向かつての牛の暴走シーンとはとくに圧巻です。全編に流れる「虹の彼方に」の音楽が印象的。ニコール・キッドマン、ヒュー・ジャックマンを始め主要キャストをオーストラリア出身者で固めています。また、アボリジニと白人との混血少女ナラや老アボリジニとのふれあいなど、先住民のスピリチュアルな文化、雄大な大地の神秘性もスクリーンから漂ってきます。

このシネマ

ガイナ

大阪の戦跡を歩く

第41歩

万国の戦争犠牲者を祭る

一重願寺
(東大阪市)



平和を祈念して建立した多宝塔

生駒山麓の河内平野を一望する高台に多宝塔が建っています。このお寺は第二次世界大戦中は大阪の谷町にあり、外国人捕虜の遺骨が運ばれていました。1962年に現在の地に移転後、平和を祈念する多宝塔を建設して、米英

など8カ国の捕虜の遺骨1086人分と、レイテ島で亡くなった日本兵の遺骨、写真を祭りました。毎年8月25日に万国戦争犠牲者慰霊祭があります。境内には、お相撲さんをひいきにした元祖「タニマチ」と呼ばれる明治末期の谷町の医師・薄恕一(すさきじよいち)の墓や二代目桂文枝師匠の碑もあり、毎年4月にはジャズコンサートを開催します。

河内和泉三国誌

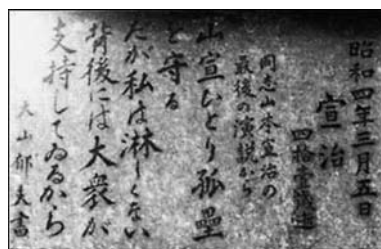
山本宣治
「山宣ひとり孤塁を守る」

42
(大阪市天王寺区)

戦前、「戦争反対」を主張するだけで投獄され、最高刑は死刑になる「治安維持法」という恐ろしい法律がありました。この法律に国会でただ一人反対して闘ったのが、労働党代議士の山本宣治(やまもとせんじ)です。クリスチャンで、生物学者として同志社大学の教壇に立っていた山本は、京都や大阪で労働学校の講師も務めました。当時タブーとされていた「性の問題」に科学の光をあて、産児制限運動にも関わり、庶民からは山宣(やません)の愛称で親しまれていました。1928年の普通選挙で労働党から立候補して衆議院議員に当選。時代は戦争へと右傾化が進み、他の代議士が次々と戦争賛成に回る中、



墓碑には最後の演説の言葉が刻まれています



山本は一人反対の論陣を張り続けました。1929年2月から、最高刑を死刑にする治安維持法の国会審議が始まりました。3月4日に大阪の天王寺公会堂で全国農民組合の大会があり、山本は万雷の拍手に迎えられて演壇に立ちます。「山宣ひとり孤塁を守る。だが私は淋しくない。背後には大衆が支持しているから」という有名な演説はここで生まれました。翌日、国会で反対演説をするために上京した山本は、右翼の人物に刺殺され、40歳で凄惨な最期を遂げました。その後日本は侵略戦争に突き進みます。戦後、平和憲法が制定され、治安維持法は廃止されました。「山宣」が亡くなって今年3月ちょうど80年。毎年命日に、故郷である京都府宇治市で墓前祭が行われ、全国から多くの人々が訪れて反戦平和の誓いを新たにしています。

何を笑うかによって
その人の人柄がわかる
マルセル・パニョル

フランスの劇作家・マルセル・パニョル(1895~1974)の言葉。他人の弱点を軽蔑する笑い、無邪気な共感の笑い、喜びいっぱいの朗らかな笑いなど、何を笑うかによって人柄がわかると思います。他人のユーモア・機知が理解できなければ笑うことはないし、下品な話題には、下卑た笑いしかありません。「笑い」にも豊かさ、貧しさがあるようです。

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

菜の花や
月は東に日は西に
与謝蕪村

摂津国(大阪府)毛馬に生まれた江戸中期の歌人・与謝蕪村(1716~1783)の句。神戸六甲山脈の摩耶山を訪れたときに詠んだ言われています。一面に広がる菜の花の景色は壮観で、春の代表的な風物詩にもなっています。画人でもあった蕪村は菜の花を好み、この花をテーマにした句を多く遺しています。